



朝日学園連合PTA広報誌

Trinity

トリニティー

Vol.4
2013 Spring



CONTENTS

- | | |
|---------|---------------|
| 1— 学園歌 | 19— 中等教育学校 |
| 3— 座談会 | 25— 朝日学園行事一覧 |
| 6— 表彰 | 27— 数字で見る朝日学園 |
| 7— 幼稚園 | 29— 朝日学園教職員一覧 |
| 13— 小学校 | |



朝日学園歌 「朝日をあびて」

朝日学園連合PTA 作詞
園田 幹子 作曲
金丸めぐみ 編曲

さあ 歩きだそう はるかな道 力いっぱい この瞬間を
ひとりの力 小さくても 手をつなぎ 仲間を信じて

海にむかって とびたつ鳥 はるかかなたに 未来があると
信じる勇気くれたのは ここにいる仲間
ありがとうの気持ちをこめて 自由の空へ とびたて
ここに大きな華を咲かせて すばらしい未来へ すすもう

海にむかって とびたつ鳥 新たな大地に 未来を創る
豊かな知識くれたのは ここにある学びや
ありがとうの気持ちをこめて みどりの地球みつめよう
朝日をあびて 輝く笑顔
ありがとう We are blessed with everything

ありがとうの気持ちをこめて みどりの地球みつめよう
朝日をあびて 輝く笑顔
ありがとう We are blessed with everything

はじめに

平成25年4月、おかげさまで「Trinity」第4号の発行を迎えることができました。

平成21年、朝日学園連合PTA発足を経て、平成22年4月、朝日学園PTA広報誌としての「Trinity」第1号(創刊号)が発行されました。

毎年1号ずつ発行を重ねるごとに、広報誌としての内容がより充実したものになり、今まで広報誌に携わって下さった多くの方々のご協力に深く感謝致します。

また創刊号から今号に至るまで「Trinity」には各校園3つのPTAが三位一体(Trinity)となり、朝日学園すべての子どもたちを支えていきたいという願いが込められています。

各校園が掲げる「人を大切に」「物を大切に」「あいさつ運動」「品格教育」「個性を伸ばすハイレベルの教育」という素晴らしい理念を相互に共有し、連合PTAとしてこれからも子どもたちの支えとなり、よりよい活動を行っていききたいと思います。

この広報誌が朝日学園をよりよく知るための情報誌としてお役に立てれば幸いです。

平成25年4月

連合PTA ～幼・小・中等3つのPTAが連携を図って～

24年度 連合PTA活動テーマ

幼小中等が相互理解を深める。一貫教育であることの特性が活かされる活動を行う。

(24年度の主な活動内容) 朝日塾中等教育学校見学会の開催。各校園主催講演会の後援。広報誌「Trinity」作成・配布。

朝日塾中等教育学校PTA教育講演会
(4月20日・グリーンホールにて)

「人は何のために
生きるのか」

早稲田大学名誉教授・工学博士
吉村 作治氏 講演



中等教育学校全生徒を対象に開催されました。
「人は何のために生きるのか」吉村先生の生い立ちや受験の時の苦労話を交えて、お話を頂きました。古代エジプトのお話は格別で「夢は叶う」ということが伝わってきました。

朝日塾中等教育学校見学会
(6月8日)

「より力強く、
より手厚く」

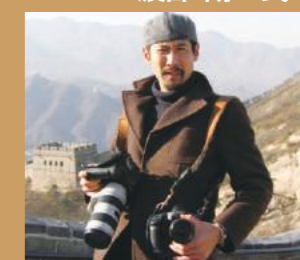


連合PTA中等教育学校保護者見学会
当日は天候が悪く心配されましたが、中等教育学校のありのままを見て頂きました。学園長が校長ということもあり、力のかもった見学会となりました。保護者の方々から、噂で聞いたのと全然違ったので見に来て良かったと感想を頂きました。

朝日塾小学校PTA教育講演会
(10月18日・グリーンホールにて)

「家族の絆—世界100ヶ国
以上の家族と過ごした時間」

戦場カメラマン 渡部 陽一氏 講演



200名近くの保護者と4～6年生児童が参加し開催されました。
渡部陽一さんは、テレビでおなじみのゆっくりとした口調で講演をされ、身振り手振りを交えながらご自分の撮られた写真を熱心に説明してくださいました。遠く離れた国で起きている惨状を知り、自分たちが今すべきことや、家族で過ごす時間の大切さなど心に残る素敵な講演でした。

座談会「これからの朝日学園」

平成24年12月4日 朝日塾小学校

- 鳥海 十児(とりみ みつじ) 学園長
 ●安田 英祥(やすだ ひでよし) 連合PTA顧問
 ●岸 学(し まなぶ) 連合PTA会長、中等教育学校PTA会長
 ●平 由起(たいら ゆき) 小学校PTA会長
 ●佐藤 美和子(さとう みわこ) 幼稚園PTA会長

朝日学園 25年度の新たな取り組み

安田 今年度は学園長が中等教育学校校長に就任されましたが、いかがですか。
鳥海 学園長と校長の兼務は厳しいということがよくわかりました。
安田 学園長が校長をしていただけるのは全体的には安定性があります。保護者としては「精神的支柱」として大変安心できます。

鳥海 私は「全員の生徒の顔を見たい話かしたい!」との思いを強く持っています。バスがつく時間に外へ出れば、バスで来る子、寮生、ほとんどの子に声をかけることができるので出来る限り登校する生徒を迎えています。教室の授業も見たい、などあれこれしたいとの思いが多くなり、やりたい事とやれる事のバランスを取るのが厳しくなりました。

佐藤 現在は中等で過ごされることが多いのですか?
鳥海 中等が多くなるようにしたいと思っていますが、なかなかそうはならないです。朝は何か特別な用事がない限り中等に行くようにしています。朝御津へ行くと、次に他の用事があれば打ち合わせなどを短時間で済ませて出かけています。

岸 学園のこれからの取り組みとしては、どのようなことをお考えですか。
鳥海 学園全体(幼・小・中)として面倒見のいい学園にしたい。その一つとして小学校で放課後に「校内塾」を始めようと考えています。

岸 それは勉強をみるためのところですか?
鳥海 勉強だけではなく、働く保護者の応援として小学校の授業が終わった後保護者の仕事が終わるまでお預かりする「補修ゼミ」と学力の伸長として勉強をする「塾部門」、それから情操教育の充実をはかる「スポーツや文化の教室」の3本柱です。学校が終わったら、これまで通りスクールバスなどで帰る児童、残って「校内塾」で勉強やスポーツをする…といったようなことを選択できるように考えています。

平 帰りはどうなるのでしょうか?
鳥海 今のところ岡山駅西口までスクールバスを運行することを考えています。
佐藤 いつ頃から開始される予定ですか?
鳥海 25年の春からです。このトリニティーが発行される頃には開始しているはずですが。
佐藤 働く保護者が、幼稚園の頃は預かり保育があって助かったけれど、小学校になって困るとの声を聞いたことがあります。幼稚園の預かり保育にあたる「校内塾」開始は働く保護者にとって、とても助かるでしょうね。小学校の教室を利用したり、小学校の先生方が指導されたりするのですか?

鳥海 場所は小学校を利用します。学校の先生方もですが、朝日塾SOLAの先生方が必要があれば外部の講師にもお願いします。
平 別途費用はかかるのですか?
鳥海 費用はかかります。他の中学・高校などでも校内塾をしているところでは別途徴収されています。

平 中等では何かしているのですか?
鳥海 中等では2年前から「サンライズ」といって超難関大・医学部進学数学教室をしています。

佐藤 中等の「サンライズ」は人気があるのですか?
鳥海 難関大学の受験用数学なので一部の生徒だけになります。今後、全生徒が対象となるように広げていきたいと思っています。

平 「校内塾」では夏休みなどの長期休暇中の預かりはあるのでしょうか。以前から希望があるとお聞きしています。
鳥海 夏休みに関しては当然ご希望もあるでしょうが、バスのことなどもあるので具体的には未定です。

公立と私立の違いは

岸 公立と私立の違いはなんですか。
鳥海 一番大きな違いは授業料です。これは全国の私立が頭を抱えていることで、以前は「安い」と「高い」の差でしたが、就学支援金が出るようになってからは「無料」と「有料」の差になりました。なので、私立学校の団体は国に対して活動中です。教育面に関して言えば、教師の熱意だと思います。一般論ですが私立の先生のほうが熱心に指導してくれます。私立は各校の建学精神によって特色を出

した教育ができるというのが違いです。
鳥海 小学校では、6年生を対象に公立・私立の受験対策として面接の練習をしていただいています。中等以外に公立・他の私学と選択肢がたくさんある中で卒業生にどのように進んでほしいですか?

鳥海 学園としては中等に進んでほしいですが、保護者は公立の中高一貫校を望まれることが多いです。先ほどお話しした授業料のことも出てきます。今のところは進学実績のある岡山白陵(以下岡白)の希望者も多いです。

平 それぞれの希望に合わせて指導してくださいということですね。
鳥海 中等、公立中高一貫、他の私立それぞれに対応しています。

佐藤 朝日塾幼稚園から塾小、塾小から塾中等への進学率が低い理由はどこにあるとお考えですか?

鳥海 大学の進学実績だと思います。幼稚園から小学校については、岡大附属・清心・公立などの選択肢があります。ここに関しては各家庭のお考えで選んでいただけます。小学校から進学する場合、岡白志望が多いところへ公立中高一貫校がきたことによりそちらにも目が向いているというのが現状です。中等にはまだ積極的に目が向いていない状態です。なぜかという、岡白が今年東大に何人入れた、では中等はどこに何人入れたの?という時に今は比べ物にならないからです。

佐藤 たしかに、岡白には小学校で成績のいい子がたくさん進学していますよね。



平 由起 小学校PTA会長 佐藤 美和子 幼稚園PTA会長

鳥海 ですから、「他の私学と比べ朝日塾中等の教育内容がはるかに良い」と感じていただく必要があります。しかし現段階ではそこまでの差はつけられません。見えるところは大学の合格者数になるので、大学進学の結果を出すしかありません。時間がかかりますが毎年の積み重ねが大事で、今はそれをしているところです。受験者(生徒)人数差を修正した雑誌が「難関大学の合格率」を出したところ、成績は良くなっています。人数は少ないですが、これからもひとり一人を大切にしながら実績を積み重ねていくことが大切だと感じます。

佐藤 中等のイメージは「少数精鋭」ですね。
鳥海 正に少数精鋭です!そのため、生徒によく目が行き届き、面倒見よく指導ができ、結果も出てきています。それが他校との差としてアピールできる場所です。

佐藤 それでは年々成績が良くなってきているのですか?
安田 しかし、この学園の良さが外に伝わっていないように感じます。
鳥海 たしかに、アピールは下手かもしれません。
佐藤 私は中等の見学会に初めて参加して、中等教育学校の良さがわかり、参加してとてもよかったと思っています。

安田 見学に来られると良さをわかっていただけるのですが、なかなか中等までは来ていただけなくて。

佐藤 幼稚園からは中等はすごく遠く感じます。
鳥海 幼稚園の保護者の方からは距離ですが、気持ちの上で「まだ幼児だから中学校は先のこと」と思われるでしょうね。

佐藤 きっと5~6年ってあつという間のことでしょね。
鳥海 来れば少人数の良さも悪さもわかります。実際に見て、少人数を選ぶか選ばないかということでしょうね。

安田 ところで、皆さんは「30人中、東大〇人」は、気になりますか?
平 それよりも、生徒全体がしっかりと進学できているほうが良いと思います。
鳥海 生徒は少人数でしっかりと目をかけてもらえるため頑張れます。たとえば同じ偏差値の子が他の私学に行った場合と比較すると中等に進学した方がグンと伸びる率が高いです。

安田 ちなみに現高3は今まで一番紆余曲折があった気がするのですが、先生方にしっかりと指導していただき、鍛えられ本当に良くなりました。最後の模試でこれまで一番良い成績を上げました。

鳥海 伸び率は大きいです。入ってからしっかりと成績を上げていけるように頑張ってい

ます。
安田 たとえば上位5名がセンター利用で早慶に受かるのに、そういったことで合格率を上げることをしない。宣伝のためにそういったことをする学校がある中、生徒の希望をしっかりと受け、生徒を大事にしています。

平 生徒の気持ちを大事にするのが基本ですね。そこが良いところですね。
安田 卒業生・在校生の保護者は大事にしていたいただいと感謝しています。

情操教育への取り組み

*品格教育について

平 幼稚園は心の教育を重視、中等は成績を重視、小学校のイメージが宙に浮いている気がしてなりません。昨年はいさつ運動などで情操面の話がありましたが、今日の話の聞いているとやはり小学校も勉強に重きを置いているように感じました。

鳥海 お勉強の旗を降ろすことはできないけれど、勉強だけではいけないということで、しつけ・マナーといったことを打ち出し「あいさつ運動」を学園全体で行いました。その流れはそのままあるのですが、小学校は今「品格教育」という言い方をしています。中身はやはりしつけ・マナーです。きちんとしつけができてマナーのいい子が「品格のある子」だと思っています。それは学園全体を通じて同じことです。幼稚園でもしっかりと挨拶のできる子、脱いだ靴を揃えることができる、自分の身の回りのことを自分でできるように育てていきたいです。

安田 それでは春から変わってきたと思うことはありますか?
平 高学年ではあまり違いは感じてないです。やはり低学年からの指導が必要だと思います。同じことを説明しても、低学年は興味を持ってくれますが、高学年になると冷めていて乗り遅れた感じかして残念です。一朝一夕にはいかないことなので、単発的なアクションではなく継続していただきたいです。そして、卒業生が自分の子どもを朝日塾小学校に通わせたいと思うような学校になっていくといいですね。



安田 英祥 連合PTA顧問 鳥海 十児 学園長 岸 学 連合PTA会長、中等教育学校PTA会長

佐藤 オープンスクールなどで英語の授業を見学した際、児童がとても楽しそうで自分もこんな学校に通いたかったと思いました。

鳥海 そうりたいと思っています。
平 長い人生で、人格形成にすごく大事な時期に長時間心に負担をかけるのはいかかなのでしょうか?

鳥海 かけないほうがいいでしょうね。しかし小学校でいえば、開校以来中学受験で実績を上げてきたことで入学してくださる方もたくさんいらっしゃいますので、ジレンマもあります。

平 親は欲張りになって、それだけでは満足しなくなりますね。
鳥海 なので学力も品格も両方ということになってきています。
佐藤 低学年は課外授業が多くとても楽しみにしていますが、学年が上がるとなくなってしまうのですか。

平 少なくなりますよ。
岸 課外授業は遠足などの他にどのようなものがありますか。
平 田植えと稲刈りもあります。草取りや田んぼの世話などはせず、「田植え→稲刈り→食べる」だけで、「米を作った」になるのかなと疑問に思うことがあります。

鳥海 本当はそういったこともさせたいと思います。知ってほしいけれど時間的にできないので、すぐそばにあるので途中の過程も見えてくれると嬉しいです。せめて「田植えのときに泥に入る」「収穫で稲を刈る」経験をしてほしいと思います。

佐藤 小学校も公立と比べ少人数で副担任もいるので目が行き届いていますね。小学校でも成績差があるので中等と変わらず、成績が目標に達していない児童の底上げをしてもらっていますか?
鳥海 もちろんです!

安田 もうちょっと「採られたい」といった思いはないですか? 同じような環境の中で成長して、世の中にはいろんな人がいるということがわかるのかな?
平 大丈夫かな?とは思いますが。

鳥海 それを思っ公立に行く家庭もあります。私立で穏やかに育つという選択肢もあります。ただ、どちらが良かったかはわからないですね。
平 同じ子が両方の道を歩んだ結果を見ることができないので難しいですね。子育

ては、家庭・地域・学校とは言うけれど、子どもの過ごす時間の長い学校は大事だとつくづく思います。

安田 自分の経験上、家庭のしつけも大切だと思います。
平 時間はかかると思いますが、品格教育に期待しています。
鳥海 学力は目の前で頑張ればよくなるのですが、しつけ・マナーは一朝一夕にはいきませんので積み重ねが大切です。今後もより学校と家庭が協力していきたいと思っています。保護者とも話す機会を多く作っていきたいです。

*食育について

佐藤 小学校では、給食にも力を入れてもらえているのがよくわかります。レシピコンテストなど色々ありますね。親としては安心です。
平 食事が変わると子どもが変わるとも言われています。保護者の食に対する意識も高いですよ。

岸 どのような取り組みをされているのですか?
平 数年前、「子ども達に温かいものを食べてもらいたい」ということで給食業者を変更しました。現在は次のステップとして内容を吟味しています。既製品を極力減らし、手作りの給食を提供してもらっています。また、子ども達が興味を持つように特別な献立の日には食材の説明や行事の由来のメモをつけたり献立表の中で案内をするようにしています。

岸 品格だけでなく、食など各方面から子どもの心に寄り添ったことを続けてほしいです。

*表現科の授業について

安田 小学校の表現科の授業はどうですか?新しい試みですね。
鳥海 社会に出ると自分の意見を持つ、きちんと表現できることが必要になってきます。また、人の意見を聞き、人の意見の違いに気づき調整できる、いわゆる中等のディスカッションのねらいと同じです。できれば幼稚園でも自分の意思を人前で表現できるようにありたいと思っています。学園全体を通して表現力のアップを目指しています。

平 先田1年生がマインドマップを作成してそれをもとに書いた作文を読んだのですが、すばらしかったです。マインドマップも書けているし、作文も文章力が付いていました。今年始めたことなので、6年生にはまだ成果が出ていません。これも時間がかかることなので大事にしてほしいです。マインドマップで算数・理科などもできるので、しっかり広めてほしいです。

*子どもの自主性について

平 子どもの勉強に親がつく必要はありますか?
鳥海 小学校1年生からでも子どもが自主的にしてくれるのが一番です。この学年では難しいこともあると思いますが、自分で必要性を感じて自分でする。わからないところは先生や親に聞くというのが一番望ましいと思います。親は必要な時に見、必要な時にアドバイスをし、べったりつきつきは子どもの成長によくないと思います。やはり子どもが間違えても失敗しても自分でまずはずす。そして自分でやれなかった時、わからなかった時、失敗したときに親や先生に聞く。そしてアドバイスを受けてまたその作業をするという過程が重要です。

平 それは自分でやろうと思えば、やろうとしている子どもに関してですが、自分でやらない子に「やりましょう」と働きかけるのはいつまでたっても親なのです。
鳥海 自分から進んでできない子はある程度親がついて、「自分でやる」癖をつけるのが前の段階ですね。

平 それは何歳くらいまで大丈夫ですか。
鳥海 個人差が大きいですね。高学年でも間に合うし、間に合わせなければならないです。しかし、高学年になれば何のために勉強するのかを問いかけることにより、内発的動機で取り組めるようになる子どももいます。たとえば「病で苦しむ人を笑顔にしたい」。そのためには、医療技術や知識が必要なので、医学部を目指す。医学部を目指すためには、受験勉強が必要だ。また、ホスピタルクラウンを目指す。ホスピタルクラウンになるために海外に留学して技術や知識を習得したい。そのためには、英語の勉強や表現力を付けることが必要だなど。大学に行って研究に入ると教えてもらいながらやっていけるものではないです。自分で開発していかなければならないですからね。社会に出て何かの仕事を与えられた時に「これは何ですか」と一つ一つ教えてもらってやるのではなく、自分で考えて自分でやっていかなければならないですから。

今時の「子ども」「親」「社会環境」

佐藤 私自身が小学生の時は「規律を守りましょう。団体行動を大切にしましょう。」と先生に教えられましたが、中学生になると「個性を大事にしましょう」と全く逆ともれることを言われ、少し戸惑った記憶があります。ちょうど学校が荒れた時代で、個性と自由を履き違えて、人に迷惑をかけても自由にする、という風潮もあったように思います。最近はまだ「個性」よりも「団体」を重視しているように感じるのですが実際はどうでしょうか。

鳥海 どちらを重視するということはありません。個人でも学校でもいろいろな方向に進みながら理想の方向を探しています。

佐藤 公立でも土曜日授業が始まるようになりますが、いかにお考えですか。
鳥海 以前はゆとり教育で、「詰め込み教育はやめましょう。ゆるやかにしましょう」と授業時間や教科書の内容がどんどん減らされました。それが脱ゆとりで教科書自体、ぐっと厚くなり、内容も増えたので土曜日授業が必要になるのでしょう。国の教育方針にぐらつきがあるので、子どもも親も学校もぐらついてしまいます。私が一番意識していることは、子ども達をよりよき社会人に育てるために何が必要かということです。小学校開校当時、「文部省の方針と違って、授業数も多くどんどん進めている方がいいのか」と言われたこともありましたが、国も教育方針の転換を余儀なくされました。

安田 ゆとり教育に反した学校を進めてきてよかったですか。
鳥海 もちろんよかったですよ。そうではないやり方なんて考えられなかったですから。
安田 だから今の小学校があるのですね。それでは失ったものは逆に何ですか。
鳥海 職員も児童ももっと休みがあって楽ができたかな。それがなかったですね。
佐藤 教育現場の問題としていじめや不登校に関しての報道を目にします。学園に不登校の子どもはいるのでしょうか。

鳥海 いる時もあります。
佐藤 社会に出てもそうですが、親としては心の折れない子に育ててほしいと思っています。学校教育でも何か働きかけがありますか？
鳥海 日常的にいろんな場面で困難に向かっている。たとえば、少し難しい課題を与え自分ではできない問題にぶつかった時、「駄目だ」とあきらめないよう励まし「なんとかしてみよう」と挑戦させる。どうしてもダメならば聞くということもあるけれど、なんとか自分の力で解決するといった経験の積み重ねを大切にしています。また、人それぞれに得意なことは違うということもわかってほしいです。スポーツは苦手だけれど勉強は得意。勉強は苦手だけれど音楽は得意。など人に負けないものを持って自信をつけてほしいと思います。

連合PTAの利点とこれから

鳥海 幼・小・中と個別に活動するのではなく、連合PTAという組織があることで共同して活動ができる。全体を見て考えられるということが一番大きなメリットですね。

何かしようと思うと、数が多ければ大きなことができます。何よりも幼稚園から高等部までの相互理解が進んでいるというのが大きいです。連合PTAがなければ幼稚園の人は中等のことを何もわからない。立地的にも離れているのでこういった形で意識して接触しなければ「知らない学校」となってしまいますが、それが解消されるのがよいところです。

岸 三校園のPTAが世代を超えて情報交換できることが学園の利点だと思います。
安田 学園のことだけでなく、他の中学・高校についても考えることができますね。

平 連合PTAも4年目を迎え、当初はトリニティーの発行が中心でしたが、今年度から連合PTAが主催で見学会を開くようになりました。また、講演会の時の声掛けなどもしています。連合PTAに対して今後の希望はありますか？

鳥海 単位PTAを乗り越えて更に交流を増やしてほしいです。また子ども達の交流も更に増やしていきたいと思っています。

岸 親として…教育とは3つの言葉があると思います。「教える・育む」。これは普通の教育ですね。それから「共に育む」。親も子どもと一緒に成長していくというものです。子育てというのは誰もが初めてで手探りで進んでいくものなので親も育ていかなければならないし、子どもも育ていかなければいけないということです。「強く育む」(強育)いくら成績が良くても社会に出てから弱い人間では困る。反対に成績が悪くても社会に出てからバリバリとリーダーシップを発揮して頑張っていく人もいられるように、社会に出てから人間は勝負ではないかと思う。そういう意味でやはり強い人間に育てていかなければならない。いろいろなことにもまれながら、何事も自分で考え能動的に自主的に進んでいく姿を親としては見届けていかなければならない。この3つの「きょういく」があるように思います。

鳥海 「今日、育てる」(今日育)子どもを育てるには「明日どうする」ではなく「今日、どうする。今、どうする。」ということが大事。今を一つ一つ積み重ねなければならないなと思いました。

安田 4つ目の「きょういく」の言葉ですね。

鳥海 きちんと積み上げていけば目標に達することができるということ、これからの子ども達にも知ってもらいたいと思っています。本日はありがとうございました。

学園長への一問一答



1. 座右の銘は？ ● いまやらねばいつできる わしがやらねばたれがやる (平籾田中先生のことば)
2. 血液型・星座・趣味は？ ● O型・みずがめ座・少し前までは「仕事が趣味」などと言っていましたが、最近は少しくたびれてきたのか「趣味は旅行」になりました。
3. 好きなスポーツ ● するのは下手なゴルフ、ただこの1年間は6回しか行けませんでした。見るのはプロ野球で、中日ドラゴンズの66年継続ファンです。父親が中日新聞の記者でしたから。
4. 好きな季節 ● 昔は夏でした。今は体力が落ちたせいか春が良くなりました。
5. こどもの頃の様子 ● 小学校2年生から6年生まで太平洋戦争中でした。戦災や学童疎開で6年間に4回学校を変えました。不自由な時代を過ごした代わりに精神的に強くなったと思います。学校の裏山に修学旅行(?)に行ったのは楽しかったです。
6. こどもの頃なりたかったもの ● 中学に入学した時から新聞記者を目指していました。中学高校の6年間はずーっと学校新聞を作っていました。大学3年の時に経済学者に方針転換しましたが…
7. 歴史上の人物に自分を当てはめると ● 考えたこともありません。あえて人名を挙げれば安部宗任(鳥海三郎)でしょうか。
8. 若さの秘訣 ● 前向きにモノを考えること、人と語り合うこと、頭を使うこと、体を使うことなどではないでしょうか。
9. 健康で気をつけていること ● 三度の食事で適量をきちんととること(時々車で走りながらパンやおにぎりを食べていますが)、適度の運動をすること(ウォーキングで一日平均一万歩を目標にしています)、睡眠時間をきちんととること(最低6時間が目標です)
10. もし宝くじが当たったらどうしますか ● 全額を朝日学園に寄付します(ちょっと格好良すぎるかな)
11. 一日の(車での)走行距離は？ ● 平均100キロか、少し切れる程度です。中等学校へ2往復した日は確実に100キロオーバーします。
12. 人生で一番大切なもの ● 自分の周りにいる沢山の人の「よい人間関係」。いろいろな方のお力添えで今の仕事ができ、生活ができています。私も誰彼にお力添えする「恩返し」がたくさんできればと願っています。
13. これからの夢 ● 個人的には「夢」は概ね終わりました。これからは学園の教育内容がより一層向上し、子どもたちがもっともっと伸びて、大きな夢を実現してくれることを願っています。あえて言えば「卒業生の中から国連の事務総長を出したい」が大きな夢でしょうか。
14. 子どもたちに持ってほしい夢 ● 夢想ではなく、何でもよいから、目標として大きな夢を持ってほしいです。その夢の実現に向けて「夢一途に」毎日一歩一歩と努力することが大切だと思います。
15. ストレス発散法 ● 鈍い人間なのでしょうか、あまりストレスを感じません。頭の痛いことはたくさんありますが、考えて解決のつかないときは、取りあえず一晩寝ます。夜が明ければ何とかなるものです。
16. 人生の転機は ● サラリーマンで岡山に出張で来ていた私が、縁あって塾を開設した時(1975年)
17. ご自身はどのような子育てをされましたか？ ● 妹4人の面倒はよく見ましたが、わが子の子育ては殆どできていません。とにかく人の2、3倍働くことで精一杯でした。
18. 朝日学園の教職員へのメッセージ ● 子どもたちのため、学園のため、そして何より自分自身のために、常に前を向いて歩んで行きましょう。
19. 保護者へのメッセージ ● 「悩み」なしに子育てをした親は一人もいません。あなたも自分の親を悩ませて、今に至っているのです。順送りなのです。悩みを活力にして、前向きに生きていきましょう。
20. 子どもたちへのメッセージ ● キミには無限の可能性がある。それを信じて前向きに努力していこう。国連事務総長にも、ノーベル賞受賞者にも、人類を救う医師にもなれる可能性があるのだ。(アメリカの大統領にはなれないよ)